

業界最大容量(*1)の565Lで、余裕の収納力を実現
 大容量冷蔵庫「たっぷりビッグ すみずみクール」シリーズに最大容量機種を追加
 従来機種(*2)と据え付けスペースが変わらない、幅740mmサイズ

日立アプライアンス株式会社(取締役社長:石津 尚澄)は、幅740mmサイズで業界最大565Lの大容量を実現したR-SF57WMを「たっぷりビッグ すみずみクール」シリーズの最大容量機種として、2007年1月1日から発売します。

今回の新製品では、独自に開発した新しい断熱材「高流動性ウレタン」の採用により、従来機種に比べ、さらなる薄壁化が可能となり、業界最大容量の565Lを実現しました。また、業界最大の冷凍室容量173Lも実現しました。こうした大容量化により、冷凍食品やドレッシングなど食材の多様化による冷蔵庫の容量不足を解消します。さらに、最近の健康志向を反映し、保存料を含まない食材が増えていることから、こうした冷蔵が必要な食材の増加にも対応します。

型式および発売日

型式	定格内容積	本体希望小売価格	発売日	月産台数
R-SF57WM(ツインドア)	565L	オープン価格	2007年1月1日	6,000台

新製品の主な特長 <大容量冷蔵庫「たっぷりビッグ すみずみクール」R-SF57WM>

1. 幅740mmサイズで業界最大容量565Lの、余裕の収納力を実現

冷凍室を冷蔵庫の中段に配置した「まんなか冷凍」構造を引き続き採用することで、冷凍室や野菜室の壁内の断熱材を薄くしています。また、新たに、独自に開発した「高流動性ウレタン」を採用することで薄壁化を図り、庫内の大容量化を実現しました。これにより、従来機種に比べ、冷蔵庫の容量が30L増加し、食材のまとめ買いなどにも対応できます。なお、据え付けスペースは、幅740mmサイズで従来機種と変わりません。

2. 業界最大冷凍容量173Lで、冷凍食品の増加に対応

冷凍食品の多様化に伴う消費量の増加に対応し、冷凍室の容量は、業界最大の173Lとしました。食材の高さに合わせてすっきりと食材を整理できる3段式フリーザーケースを、引き続き採用しています。さらに、冷凍室の急速冷凍コーナーの拡大と、ケースの強度アップのため、最上段のフリーザーケースには、新たに全面ステンレストレイを採用しました。

3. 冷蔵庫内の温度むらや温度変動を抑える「ダブルクール」を採用

冷蔵室に新開発の「ダブルクール」を採用することで、大容量化により庫内が広くなることで起こりやすかった食品の温度むらや温度変動を抑えます。また、この「ダブルクール」と、7つの温度センサーで常に最適な温度制御を行う当社独自のセンシング技術や、真空断熱材などにより、年間消費電力量を1L当たり約20%(*3)低減することができました。

4. 重厚感のある新色ローズブラウンを追加

本体色は、「たっぷりビッグ すみずみクール」シリーズで採用しているソフトブラウンとステンレスローズに、重厚感のあるローズブラウンを新たに加えた3色展開としました。また、今回の新製品でも、スリム感を表現する「サイドラウンドフォルム」や、開けやすい縦型ハンドルを採用し、スマートで高品質感のあるデザインと、使いやすさを両立しています。

(*1) 2006年12月18日現在。日本国内メーカーが販売している家庭用冷蔵庫において。

(*2) 従来同等サイズ機種 R-SF54VM (535L) との比較。

(*3) 従来同等サイズ機種 R-SF54VM の1L当たりの消費電力量1.29kWh/年と、新機種 R-SF57WM の1L当たりの消費電力量1.08kWh/年との比較。

需要動向と開発の背景

2006年度の家庭用冷蔵庫(冷凍庫を含む)の市場は、前年並みの約455万台と見込まれます。この中で500L以上は、前年比約2倍(日立調べ)の伸長を示しており、さらに、大容量化が進むと予測されます。この背景には、近年の冷凍食品の高品質化や多様化、ペットボトル飲料や調味料の増加や、スーパーの郊外化による食材のまとめ買いなどがあると考えます。

また、当社の調査によると、買い替え対象である1995年から1997年までに401L以上の大型冷蔵庫が市場で約400万台販売され、その中で幅685mmサイズと幅740mmサイズの割合は、3:1となっています。そこで、今回、幅740mmサイズの買い替え需要を見込み、約11年前の機種に比べ、容量が115L増加した大容量冷蔵庫を開発しました。さらに、大型冷蔵庫に起こりがちな広い庫内での食品の温度むらや温度変動を抑える機能も搭載しました。

お客様からの問い合わせ先

お客様相談センター 電話/0120-3121-11

冷蔵庫ホームページ

<http://kadenfan.hitachi.co.jp/rei/index.html>

以上

(添付資料)

大容量冷蔵庫「たっぷりビッグ すみずみクール」 R-SF57WM の詳細説明

1. 幅 740mm サイズで業界最大容量(*1)565L の、余裕の収納力を実現

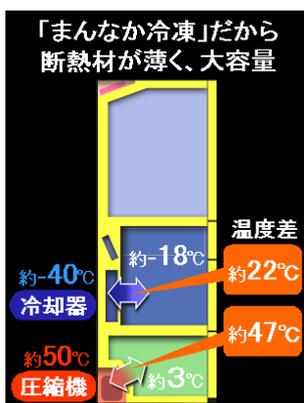
「まんなか冷凍」構造(図1)や、「高流動性ウレタン」を採用し、幅 740mm サイズで、業界最大容量(*1)の 565L を実現しました。従来機種(*2)と比べ、据え付けスペースは変わらず、容量が 30L アップしました。

「まんなか冷凍」構造

冷凍室を冷蔵庫の中段に配置することで、下段背面に搭載している圧縮機からの熱影響を受けにくくしています。また、製氷室や冷凍室をまとめて中段に配置し、低温の冷却器と近接させることで、庫内の断熱材を薄くすることができました。

「高流動性ウレタン」

新製品では、壁内の狭い部分にもしっかり流れて充てんできる(図2)高流動性能と、薄くても断熱性能を向上した当社独自開発の発泡断熱材「高流動性ウレタン」を新たに採用しました。これにより、従来からの高性能真空断熱材とあわせて、さらなる薄壁化を実現しました。



[図1 まんなか冷凍構造]



[図2 ウレタンの流動性]

(*1) 2006年12月18日現在。日本国内メーカーが販売している家庭用冷蔵庫において。

(*2) 従来同等サイズ機種 R-SF54VM (535L) との比較。

2. 業界最大冷凍容量(*1)173L で、冷凍食品の増加に対応

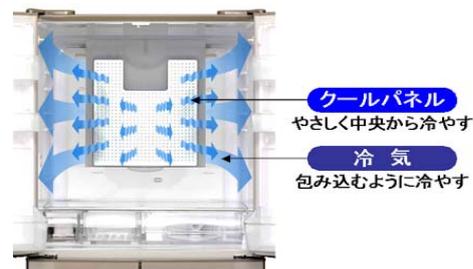
冷凍室は、冷凍食品の高品質化や多様化に伴う消費量の増加に対応し、業界最大容量(*1)の 173L を実現しました。これは、従来機種(*2)と比べ、10L の容量の増加となります。また、食品をすっきり整理できる3段式フリーザーケースを引き続き採用し、大容量化で起こりがちな冷凍食品の積み重ねによる使い忘れを抑えます。さらに、冷凍室の急速冷凍コーナー拡大とケースの強度アップのために、従来から最下段に採用していた全面ステンレストレイを、最上段にも新たに採用しました。(図3)



[図3 3段式フリーザーケース]

3. 冷蔵庫内の温度むらや温度変動を抑える「ダブルクール」を採用

冷蔵庫には、庫内の中央から食品を冷やすアルミニウム製の「クールパネル」と、「クールパネル」の両サイドから吹き出す冷気により、大容量冷蔵庫でも食品の温度むらや温度変動を抑える「ダブルクール」(図4)を採用しました。この「ダブルクール」と、7つの温度センサーで冷蔵庫内外の温度データを分析し、常に最適な温度制御を行う当社独自のセンシング技術や、真空断熱材などにより、断熱性能がアップすることで、1L当たりの年間消費電力量を、従来機種に比べ、約20%(*3)低減し、大容量565Lで消費電力量610kWh/年を実現しました。



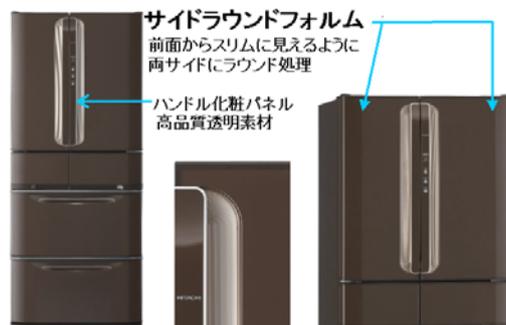
[図4 ダブルクール]

(*3) 従来同等サイズ機種 R-SF54VM の1L当たりの消費電力量1.29kWh/年と、新機種 R-SF57WM の1L当たりの消費電力量1.08kWh/年との比較。

4. 重厚感のある新色ローズブラウンを追加

本体色は、キッチンとの整合性などを考え、高級感を演出する「ステンレスローズ」と、優しい印象を与える「ソフトブラウン」に、新たに、重厚感のある新色「ローズブラウン」を加えた3色展開です。

また、デザイン面では、冷蔵庫本体の両サイドにラウンド処理を施すことで、本体幅の内側にハイライトが入り、スリム感を表現する「サイドラウンドフォルム」を採用し、大容量でありながらスマートな外観を実現しました。冷蔵庫ドアのハンドルは、開けやすい縦型とし、周囲にメタリック感のある透明素材を使用することで、使いやすさと高品質仕上げを両立しました。(図5)



[図5 外観デザイン]

5. その他の機能

「冷凍切替室」(湿度切り替え)

新製品では、上段冷凍室の引き出しケースに、約65%(一般的な冷凍は約40%)の高湿度で食品を保存し、乾燥や霜付きを抑える「うるおい保湿冷凍」モードを採用しました。ケースを保湿カバーで密閉し、風を当てずにケース全体からの輻射冷却で冷凍を行うため、湿度を逃がさずに保存でき、食品の乾燥を防ぎます。さらに、ケースを断熱二重構造にすることで、冷凍室内の温度変動や霜付きを抑えることができます。

なお、つまみをスライドさせることにより、「うるおい保湿冷凍」モードと、湿度が約45%の「スピード保湿冷凍」モードに切り替えることができます。

「かるピタドア」

冷蔵庫のドアを楽に開閉できるように、「かるピタドア」を採用しました。開ける力を軽減し、さらに、閉める時は軽く押すだけで自動的に引き込むオートクローズ機能を搭載しました。半ドアによる電気のむだ使いを防止することができ、省エネにも効果があります。

さらに、冷蔵室、製氷室、冷凍室下段のドアを約1分間開けたままにすると、ドア面操作パネルのボタンが点滅し、アラーム音で知らせる「エコアラーム」も採用しました。

「低いん棚」

使い勝手にもこだわり、冷蔵室の最上段の棚までしっかり手が届きます。当社では、11年前(*4)から床からの高さを約155cm以下に設定しています。これにより、平均的な身長日本人女性(約157cm)が、背伸びをせずに最上段も見渡せ、容易に手が届くので、楽に食品の出し入れができます。また、食品の出し忘れも少なくなります。

(*4) 従来同等サイズ機種 R-S43MVP(11年前まんなか野菜タイプ)との比較。

6. 環境への配慮

冷媒は R600a(イソブタン)を採用し、従来から採用している断熱材発泡剤シクロペンタンと併せ、地球温暖化への影響が極めて小さいノンフロン冷蔵庫としました。また、使用する原材料が及ぼす環境への影響を低減するため、電子制御基板や冷凍サイクルなどへの無鉛はんだの採用、六価クロムを含まない電気めっき鋼板やネジを採用し、EUのRoHS指令(*5)に対応しており、J-Moss(*6)に基づいてグリーンマークを表示しています。

(*5) Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipmentの略。欧州連合(EU)域内で取り扱う電気・電子機器製品を対象に実施する有害物質規制のこと。2006年7月1日以降、鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB(ポリブロモビフェニル)・PBDE(ポリブロモジフェニルエーテル)の6物質の使用が制限されています。

(*6) 日本工業規格(JIS C 0950:2005)「電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法」。

新製品の主な仕様

型式	R-SF57WM	
定格内容積	合計	565L
	冷蔵室	288L
	冷凍室	173L
	野菜室	104L
外形寸法(幅×高さ×奥行)	740×1,815×688 mm	
質量	97kg	
年間消費電力量	610kWh/年	
本体色	ローズブラウン(TR)/ステンレスローズ(SR)/ソフトブラウン(T)	

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
